

◆◆◆ 当山 達彦 議員 ◆◆◆



◆◆◆ 大学院大学周辺整備について ◆◆◆

質 門前町構想について進捗状況を伺うとともに、周辺環境整備構想があれば、何時から実施していくのか。また、今後どのような形で谷茶区、または、村、関係機関と進めていくのかお伺いします。

答 企画課長 山城雅人

沖繩科学技術大学院大学周辺整備検討委員会と毎年開催している。村の取り組みとしては、生活支援基盤整備エリア地点へ、地権者の合意形成を図っていくと考えているところで、今年度中にも沖繩県科学技術振興課と村、

谷茶区で協議が行える場が設置できたらと考えているところです。

質 沖縄科学技術大学院大学に関連した企業誘致、いわゆるトップセールス等は行ったことがあるか、村長へお伺いします。

答 村長 長浜善口

私もOIST、県の方と去年の1年間、企業誘致活動をして参りました。そして沖縄県で開催される企業誘致セミナー等も参加して参りました。今後は皆様と意見交換をしながら、また、誘致できる場所等もありますので、考えながら話を進めていきたいと思っております。

質 村道76号線周辺は、壁面に落書きがされています。犯罪や事故を防ぐためにも街灯が必要だと思いますが、当局の考えを伺います。

1回の避難訓練を実施し、実施後に検証を行い、避難経路や場所等を確認して今後の防災計画につなげ、総務課と情報を共有し、行政、地域、学校と連携を図っていきます。



答 建設課長 大城 学

今後、現状を確認した上で街灯または防犯灯を含めた設置が必要か、検討していきたいと考えております。

質 海岸整備ですが、海岸沿いは波返し、護岸のせいで二部に砂が溜まらず塩害を生じています。冬場の北風や台風時には塩害が絶えません。早急な対応が必要だと思えます。当局の考えを伺います。

答 企画課長 山城雅人

谷茶区を含め県、村、漁協等、関係機関と協議していけるよう進めていくところです。

質 遊歩道整備ですが、県側と谷茶側構想の折り合いが付かず進展いたしませんでした。今後は、県または村、区を含めた整備事業の話し合いが必要だと思えますが、当局の見解を求めます。

現実的に進め、今年度中には、この話も引き続きしっかり取り入れていきたいと思っております。

答 企画課長 山城雅人

消防恩納分遣所が恩納分屯基地の近くにでき、防災、災害の場合同様にやっていく。今後、災害協定を結んでいきたい。

◆◆◆ 恩納通信所返還跡地利用促進について ◆◆◆

質 平成19年8月恩納通信所返還跡地利用地主会が設立されているが、設立から現在まで事業が遅れている理由、または地域との状況をお伺いします。

答 企画課長 山城雅人

具体的な計画、地域への細かい説明が、まだ多く必要だと考えておりまして、事業所、村も一緒になつて事業説明を取り組んで進めていけたらと考えている。

質 村からの補助金が出ているが、何年度から支出し何年度で終了しているのか。

答 企画課長 山城雅人

村補助金として平成19年度から平成25年度迄の7年間で、合計1千7百36万3千円を支出しているところです。

質 今後の支援策について村はどうお考えなのか。

答 企画課長 山城雅人

5月16日付で「高嶺晃」氏を企画課に派遣し、専門的なアドバイスを頂きながら同利用計画を促進していければと考えているところです。

◆◆◆ 大城 堅三 議員 ◆◆◆



◆◆◆ 防災について ◆◆◆

質 村は地形が横長で多くの行政区、また、学校では仲泊校、恩納校、安富祖校の3校が海沿いになり、多くのリゾートホテルが海に連なっており、災害に備える意識は重要視されます。学校や企業と連携した防災、避難訓練、現況を伺います。

答 総務課長 新里勝弘

村は年一回独自で防災訓練を実施し、県全体に実施される津波訓練への参加を、今年津波防災日に実施する予定です。その他、9行政区で自主防災組織が独自の避難訓練を行っています。

答 学校教育課長 石川 司

各学校の防災計画に基づき年

今年度の防災会議では計画の見直し、各団体との意見交換が行われました。備蓄倉庫整備を今年度も行い、各校区と区割を検討し、村民ともに自主防災組織をつくりたい。

質 事業所との災害時応援協定締結の現状は。

答 総務課長 新里勝弘

13の関係機関と防災協定を結んで、県と備蓄食料の保管・運搬協定、NTTと特設電話設置協定、村建設業者会と災害時応援協定を締結している。

質 村、恩納分屯基地、消防との締結。

答 村長 長浜善口

消火恩納分遣所が恩納分屯基地の近くにでき、防災、災害の場合同様にやっていく。今後、災害協定を結んでいきたい。

質 村の多くのリゾートホテルの活用は。

答 総務課長 新里勝弘

海岸線に接している地形を考慮し、ホテルとの避難協定は必要。協定に向けて進めて行く。

質 災害時の避難所、キャンプ・ハンスンの検討は。

答 総務課長 新里勝弘

防災計画の自身を検証し、立ち入り、避難場所の指定ができるか検討したい。

質 臨海実験施設の事業内容と事業計画等に変更があったか。

答 企画課長 山城雅人

7月の一部供用開始にあわせ開始を7月中旬に行い、その後、外構工事が8月終了、取水施設が12月完成を予定し、2つのユニットで当面はサンゴの研究を中心に実施し、次年度本格的な運用を始める。

質 環境保全を理解した利活用、海浜条例等の周知看板設置や既存の設置箇所の検証。

答 建設課長 大城 学

現地を確認し、看板等の設置を考えた。禁止マーク、多言語を表示した看板等の設置も考えています。

質 海のルールづくり、海岸条例、里海づくりと一緒を考える。

答 村長 長浜善口